

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今この時を一番大切に、住み慣れたこの土地で暮らし続けられるお手伝いを」の理念をもとに、管理者及び職員は日々の業務に取り組んでいる。	理念は玄関に掲示され、来訪者にも分かり易くなっている。毎月のスタッフ会議やホームの様々な話し合いの都度、理念が実践されているどうか職員間で確認し合い、理念に沿ったケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営者、管理者ともに地域住民の一員として、会合や地域活動に積極的に参加している。個々の職員も地域住民と交流が深く、連携をとりながら活動を行っている。また、小中学校や地域の運動会、文化祭などにも利用者さんと共に参加している。	運営者、管理者の地元にもホームがあるので近所付き合いは日ごろから深い。採りたての野菜が近所の方から届くことでホームの食材費にも反映され入居者家族からも喜ばれている。散歩に出かけ、近隣の人々と会えば挨拶を交わし、地域行事や活動には積極的に参加している。小中学生との交流も継続して行なわれており、ホームが地域の人々にとって一つの社会資源となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春の家族会時に、恒例となった地域住民対象の健康・福祉等の講座を開催したり、やしよま作りやクリスマス会にホームに来て頂き交流をはかる中で認知症への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	知見者・民生委員・保健補導員・包括職員・市職員・家族会代表・地域住民代表が委員となり、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、積極的な意見交換を行い、具体的なサービス内容や経営対策等を検討して頂いている。	委員の方が参加し易い偶数月の土曜日・午後開催している。メンバーは家族会会長、地域役員を含む地域代表者、知見者、市職員、地域包括支援センター職員などで、内容によっては消防署職員や駐在所所長などに出席をお願いしている。運営状況や活動状況の報告、事業計画や事業報告などを行い、意見・要望をいただきサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当者へ出席して頂き、問題点を相談したり助言を頂いている。また、保健・福祉担当者とも随時相談をするなど良い関係が築かれている。	市担当職員とは運営推進会議以外にも必要に応じて相談をしたりして連携を取っている。入居者の介護認定更新期に市職員がホームに来訪し家族とともに職員が立ち会い情報提供などを行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室及び2つある出入り口には施錠をしていない。また、拘束を行わないために職員は学習会に参加したり、利用者さんの思いを共有し、安全を守りながら良いケアが行えるように常に話し合っ対応している。	職員はホーム内研修を毎年繰り返し受け、禁止の対象となる行為について正しく理解している。身体拘束は一切行われていない。スタッフ会議や話し合いの中でも常に拘束について意識しており拘束のないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の学習会を行い、利用者さんの思いを受け止め、虐待を行わないケアに職員全体で取り組んでいる。		

グループホームかあちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後継制度等の学習会に参加し、制度利用が必要と思われる利用者さんについては、本人・家族・司法書士等と相談しながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時をはじめ、契約内容変更時には、十分な説明を行った上で、理解納得を得て契約して頂いている。また、大幅な改定時には家族会で検討同意の下に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入り口に意見書箱を設置したり、面会時等に家族にお会いして意見・要望を伺い対応している。また、運営推進会議に家族会の代表者も委員になって参加して頂いており、積極的に意見を出せる場を作っている。	意思疎通のできない方も含め、入居者の要望等については汲み取って日頃の支援に活かしている。家族の面会は多い方で週3回から4回あり、来れない方には連絡を取り来訪を促している。家族会も春と秋に年2回行い、殆どの家族が出席している。家族は職員と顔なじみになっているので意見や要望が言い易く、常に話し合いをもてる体制になっている。いただいた意見や要望などを全職員で検討し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は日々グループホームに行き職員の声の聞いたり、管理者も介護業務のスタッフの一員として働いており、他の職員の意見・提案を反映させるように努力しながら業務に携わっている。	スタッフ会議や朝・午後のミーティングで職員の意見や要望を聞いている。管理者は日頃の業務を通じて職員とのコミュニケーションを図っており、要望等も言いやすく、気軽に話し合えるので提案や気づきを業務に反映することができている。管理者と職員相互の信頼関係も良好で、開設から継続して勤務している職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日グループホームに行き、個々の職員に声かけをし意見を聞いて理解に努めたり、限られた資源内で良い環境が整えられるように検討努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員に必要な研修の受講を推進している。また、職員対象に外来講師を招きホーム内で数回の研修会を行い、職員のレベルアップの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が研修会やグループホーム連絡会の学習会に参加したり、自施設に研修の受け入れを行う等サービスの質の向上に努めている。		

グループホームかあちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、施設見学及び面接を行い、本人が納得した上で入居して頂き、スタッフ全員で不安や要望を受け止め対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から施設見学をして頂き、家族の課題に対応できることを確認してから入居して頂き、入居後も面会時や電話等で連絡を密に行い良い関係作りを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用希望時から、困っている事や要望を伺い、当グループホームで対応できる内容を説明の上、支援・対策を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる力を大切にして、一人一人に合った役割を担って頂き、互いに一家族として支えあう生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の状況をお話し、家族にも協力して頂きながら利用者さんの支援を行っている。入居により 利用者一家族 のより良い関係が築け面会が増えている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人の面会は勿論、本人の希望に沿い外出泊も積極的に行って頂いている。	昔、職場を共にした部下が面会に来る入居者がいる。入居者も高齢になり知人、友人も少なくなってきたおり、家族や親戚の方の来訪のみになってきている方が多い。以前入居されていた方の関係者が出張理美容に現在も来て下さるので入居者とも馴染みになっている。お盆やお正月に外泊したり、お墓参りの外出を支援するなど、馴染みの方との関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居している方の重度化に伴いコミュニケーションはとりにくくなっているが、お茶のときなど声を掛け合ったり、困っていることに気づいた時には知らせに来てくださるなどしている。		

グループホームかあちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんの入院・死亡等による退所で契約が終了してからも家族は時々ホームを訪ねて下さったり、美容ボランティアを引き受けて下さったりと良い関係は継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での利用者さんの様子や言葉から思いや希望をくみ取り、それを職員が共有して対応できるように話し合いながら実践している。	入居者の希望や意向が分からない時には表情や行動から汲み取り、職員の話し合いで情報を共有し、本人の意向に沿ったケアができるように全職員が努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族等から生活歴など伺ったり、ケアマネージャーから様子を連絡して頂いたり、本人の話や行動から情報収集を行い、馴染みの暮らし方を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況の記録と共に、個人記録に利用者さんの状況を記録して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良いケアの提供のために、個々の介護計画についてミーティングやスタッフ会を行い検討、対応している。また、家族の来訪時には本人の状況についてお話し、変化の見られた時には電話等で連絡するなどして相談対応を図っている。	介護計画は職員のミーティングやスタッフ会議で検討し、家族にも説明し、納得をしていただけるものを作っている。通常は3ヶ月毎に見直しを行っており、急激な状態変化が生じた時には家族に相談し、内容を理解して頂いてから実施に移している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、業務日誌及び個人記録に利用者さんの詳細を記録している。記録を読んだ職員は押印する事により漏れが生じないよう情報の共有を図っている。1日2回のミーティングで日々の情報に基づき、必要時介護計画の修正を行いケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出しにくい人のために訪問美容ボランティア、お出かけ時の家族や地域のボランティア、小中学校の訪問サービスなど地域からの多様な支援の下に様々なサービスが提供されている。		

グループホームかあちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に地域の方が見守り声かけをしてくださり、小中学生の来訪や、外出、美容、音楽療法などのボランティア支援や野菜、衣類、タオルなどを届けてくださる等安全で楽しく暮らし易いホームになるように支えていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	鬼無里診療所の医師が、利用者さん全員の主治医であり、定期的な往診・受診及び緊急時の対応など迅速かつ適切な医療サービスが受けられるように対応している。	鬼無里診療所の医師が入居者の主治医となっている。2ヶ月に1度往診をお願いしている。緊急時の対応も受けていただいております。診療所の看護師とも24時間対応での協力体制が出来ています。管理者も含め看護師が3人いるので職員も安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も他の職員と同様に、日々のケアに携わっている。職員同士情報や気づきを共有し連携しながら業務を行い、必要時には診療所に連絡し往診や訪問看護などの支援を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談の上、主治医を通して入院対応を行い、また、入院中から病院訪問をして状態を把握し、退院に向けての準備を行っている。退院に当たっては主治医との連携も大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後本人及び家族から、重度化や終末期の希望を確認し、主治医にもその旨を伝えている。実際に重度化した時には、家族・主治医・看護師・管理者・スタッフで検討の場を設け、再度対応方法に確認決定してケアに取り組んでいる。	入居後しばらくおいてから本人、家族に重度化や終末期の際の希望を聞き職員間で共有している。急変されて亡くなられた入居者がいたが、家族、医師、管理者、職員で話し合いの場を設け、申し合わせ事項を3部作成しお互いに合意し、職員の献身的な介護もあり、見送った時に家族から感謝の言葉を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は地域住民と共に救急法の学習会に参加したり、緊急時対応マニュアルの下に、急変時や事故発生時の対応方法を統一して対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区防災会と共催で年2回の避難訓練(1回は夜間訓練)を実施。昨今では入居者さんも落ち着いて行動できるようになり、地域住民による救助体制も整っている。また、飲料水、食料の準備や毛布等も供えている。	年2回の避難訓練を地区防災会と共催で行っている。夜間対応の時は地域の方が入居者を車椅子に乗せて連れ出す訓練も行っている。居室の入口には表札代わりに名札の裏側に入居者に関する情報が分かりやすく書かれており、退避の際の支援方法が入り口上部に図示されている。スプリンクラーの設置も完了し、その他の防火設備も整備されており、非常食等も備蓄されている。	

グループホームかあちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や生活暦を大切に思いを受け止め、誇りやプライバシー大切にしながら声かけをして良い関係作りに努めている。	一人ひとりの気持ちに沿ったケアをする時にはその方の人格を尊重したさりげない言葉かけを行い、誇りやプライバシーに気を配っている。入居者も重度化してきており、トイレ介助をはじめとした具体的な例を基に職員は学習しており、こまめに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室や食堂、散歩や作業時入浴時など様々な機会を大切にしながら、自分の思いを出せるような声かけをして、本人の意思を尊重できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や排泄等、日常生活行動をはじめ、趣味ややりたいことなど希望を聞きながら、利用者さんの思いを大切に、日々のケアに当たっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出が困難な方も増え、2ヶ月に1回美容師さんが来て髪を整えたり、体型に合わせて気に入った身だしなみができるように本人や家族と相談しながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその人の希望の食事を作ったり、やしゅうま作りなど年中行事をはじめ、栗拾いをして栗ご飯を炊いたり山菜、きのこや畑の季節野菜をふんだんに使うなど季節感をとり入れ、利用者さんと一緒に作って食事を楽しんでいる。	地元で採れた野菜を使い、ゴマや酢を使ったバランスの良い食事を楽しませている。自立されている入居者が半数ほどとやや重度化しつつある中、刻みなど手を加えているので殆どの方が完食されている。和やかな昼食時、職員の言葉かけに笑顔で頷き「おいしい」と答えている入居者が印象的であった。ジャガイモの皮むきやモヤシの下ごしらえ、配膳や片付けなど、出来る入居者が職員のお手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状態・栄養バランス・水分摂取量に応じて、夜間にも水分摂取を勧めるなど、個々の状態に合わせた食事や水分確保の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者さん一人一人のできる力に応じて声かけや介助を行い、口腔の清潔を図るようにしている。		

グループホームかあちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録により一人一人の排泄パターンを把握して、プライバシーに配慮しながら利用者さんの個々のADLに応じ、自立やトイレでの排泄の支援に努めている。	24時間のケアチェック表の排泄記録から排泄パターンを把握し、声をかけたり誘導している。その際にはプライバシーに配慮をしながら状態に応じた支援を行っている。重度化で職員2人の介助が必要な方もいるが、職員は工夫をこらし支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者さんの個々の排泄パターンを把握し、豊富な野菜を中心とした食事の提供に加え、適切な水分摂取や散歩などを行い、必要時には主治医と相談して下剤の使用も行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は定めているが、湯温・湯量・入浴に要する時間などは利用者さんの希望にあわせ、一人一人ゆっくり入浴できるように支援している。	入居者の希望する時間帯で週3回以上は入浴を楽しんでいただいている。平均介護度も高くなってきており職員二人での介助が必要な方もいる。今後の重度化に備え入浴支援について色々と検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩や作業等、本人の状態に合わせた活動を大切に健康的な生活リズムを整え、明るさ・室温・布団の温度や重さに配慮し、心地よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者さんの薬についての知識を持ち、服薬等の変更時には連絡ノートで伝達を行い、お薬情報は自由に見られるようにしてある。また、一人ずつ各1回分ずつ正確に服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの生活歴及び持てる力を考慮して、一人一人に合ったレクリエーションや作業を行うことで、日常生活に張りや生きがいを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望・体調及び天候に合わせ、地域の方や家族の支援を受けながら、散歩や地区の行事、家族との交流会などに参加している。	その日の天気や体調に合わせ日常的に散歩をしている。外出時、車椅子を必要とされる方が増えてきているが、一緒に出掛けている。入居者の状態や天候を見ながら車で近隣の名所に出掛けている。家族と一緒に外食に出掛ける方もいる。自然に抱かれているホームは外に出るだけでも五感への刺激となり、エネルギーを蓄えることができる。	

グループホームかあちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態に合わせて金銭管理を行い、希望にあわせて職員と買い物に行ったり、また、職員が買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態に合わせて、大切な方たちと手紙や電話のやり取りができるように支援、対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビ・ソファ・薪ストーブを設置し、普通の家と変わらずにテレビを見たり、昼寝をしたりとくつろげるようになっている。また、ホールには植木が置かれていて、ソファや机があり休んだり、読書をしたりと、一人一人が心地よく過ごせる空間作りに工夫をしている。	玄関からホールに入ると大きく育った観葉植物が天井すれすれ迄葉を茂らせて緑が心を休ませる。観葉植物の足元には幾つかの蘭が大きな花を咲かせている。隣の畳の共有空間にある大きなストーブが焚かれ、戸をあけるとホールまで暖かくなる。トイレや洗面所は清潔で衛生面での配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・食堂・ホール等、共有空間が多く設けられており、それぞれにソファや机、椅子、植木など適宜配置されていて、利用者さんが各々好きな場所で好きなように過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの居室には、布団・たんす・テレビ等本人の馴染みのものを使用し、自分の部屋として心地よく過ごせるように配慮している。	自宅から使い慣れた筆筒やテレビを持ち込まれている方、自分の居室の空間に衣類をきちんと左右つるして着る服を選べるよう工夫している方など、住み易く居心地の良い環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体をバリアフリーに作り、安全に配慮しながら本人が自立した生活が送られるような環境を作っている。また、「便所」と表示するなど利用者さんに分かり易い言葉で表示することで混乱を防ぎ、自身の家として日常生活が送られるように支援している。		